

# 1 法人全体

## 施設運営上の課題の取組状況と方向性（令和3年度～令和4年度上半期）

### ア 経営改革への取組

令和3年度より第3期中期計画の計画期間が開始となりました。本計画は今期よりリニューアルしており、6つの重点課題を挙げています。それらは「共生型サービス」の開始に向けた取組、特別養護老人ホーム等大規模改修への取組、人材確保の充実に向けた取組、特別養護老人ホームとデイサービス事業の経営改善に向けた取組等、いずれも法人経営における重要項目です。これらの取組を計画的に進行するため、法人本部内に経営改革本部会議を設置し、進行管理および検討を行っています。

また、長期ビジョン「VISION2030」を策定し、事業団の経営理念、介護サービス理念の実現に向けてこれから進むべき方向性を明確にしました。このビジョンは2030年度の実現を目標として、事業団の職員が一丸となり取り組むべきものです。そしてお客様やご家族、地域の方々とも共有することにより、事業団の目指す方向性についてご理解いただくことを目的としています。

### イ 障害者福祉サービスへの取組

第3期中期計画重点課題1の障害者短期入所事業の実施について、令和4年3月から田柄特別養護老人ホームで事業を開始しました。また、令和4年11月には、大泉デイサービスセンターで共生型生活介護の事業を開始予定で最終調整の段階です。

### ウ 特別養護老人ホーム等の大規模改修および大泉ケアハウスの機能転換への取組

令和3年7月に設計事務所とコンサルティング契約を締結し、施設調査および東京都への確認を行いながら具体的な工事内容等について協議を行い、大規模改修等に係る基本計画を策定しました。今後、練馬区と具体的な協議を行います。

### エ 人材確保への取組

令和2年度に発足した「人材育成委員会」が学卒者の採用活動を担当し、採用活動の充実に向け取り組みました。令和3年度からは新たに「オンライン会社説明会」の開催、PR動画コンテンツの運用を開始しました。令和4年4月採用の学卒者数は9名、令和4年10月末時点での内定者数は7名です。

### オ 特別養護老人ホームとデイサービス事業の経営改善に向けた取組

東京都のデジタル環境整備促進事業を活用し、関町特養、富士見台特養、田柄特養のWi-Fi環境の整備やデジタルインカムを導入し運用状況の検証をしています。

法人では、ICT導入検討プロジェクトチームを設置し、導入計画の策定や業務改善や特別養護老人ホームの職員体制や業務内容等の見直しを行い、経営改革の推進に取り組んでいきます。

### カ 感染症防止への取組

感染症対策本部会議を週2回開催し、法人全体のPCR検査受検者等の把握と感染症への対応を行い、法人としての感染症防止対策を継続しています。

練馬区の依頼により、当事業団の業務継続計画を提供しました。行政から情報発信を行う事業者向けサイト「練馬区ケア倶楽部」に掲載されました。

## 2 田柄特別養護老人ホーム等

### (1) 利用者状況

#### ① 定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	100人	365日	36,500人
ショート	8人	365日	2,920人
デイ	40人	310日	12,400人

※利用可能定員＝定員×年間稼働日数

#### ② 利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特養	-	-	6人	34人	76人	570人	465人	1,151人	4.3
ショート	0人	0人	25人	96人	133人	173人	95人	522人	3.4
デイ	37人	45人	196人	393人	292人	113人	112人	1,188人	2.6

※平均要介護度＝要介護1～5利用者の介護度合計／要介護1～5利用者数計

#### ③ 延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特養	34,447人	94.4%
ショート	3,306人	113.2%
デイ	10,233人	82.5%

※稼働率＝延利用者数計／利用可能定員×100

#### ④ 新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	33人	31人	2人
デイ	32人	36人	△4人

(2) 施設運営状況

① 苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特 養	令和4年 3月	利用者家族より、「近隣の施設では面会ができていのに、面会できないのはおかしい。直接逢わせてほしい。」とご意見をいただく。	感染症の拡大期でもあり、最大限の予防の取り組みをしていることを伝えご理解をお願いする。1日7組のWEBでの面会は可能であること、WEBの環境がない場合は施設においていただき、フロアと面会室をテレビ回線でつなぐ面会もできることをお伝えして納得いただいた。 なお、看取り期のお客様には、ガウンを着用して直接の面会を行うことができている。
デ イ	令和4年 1月	メールで「送迎車が歩道をふさいで歩行者の邪魔になっている。迷惑なのでやめてほしい」と歩道に停車した車両の写真とともにご意見をいただいた。	メールでの謝罪を行うとともに、送迎に関わる職員に指導することを伝える。その後、送迎員他送迎に関わる職員に、地域住民の生活圏に入らせていただいていることを自覚するとともに、法令遵守することについての再研修を実施した。

② 事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特 養	令和3年 11月	ベッドのコンセントのプラグの破損と焦げている状況を発見。介助のためにベッドの昇降でプラグを押し潰したことが原因であり、他のベッドの点検を実施し、同様のリスクは存在することからプラグを挿すコンセントの位置をベッドの昇降に影響を受けない場所に変更した。	消防署に相談すると、プラグ火災の範疇で届け出が必要な事案であったことが判明した。プラグの挟み込み事故を防止するためにウレタン製の緩衝材を取り付け物理的に事故が発生しないよう対策を講じた。また、法人内外の介護施設にも同様のリスクがあることを伝えて警鐘を鳴らした。
特 養	令和3年 11月	89歳要介護4のお客様が食堂で歩いておりバランスを崩して転倒。職員は5Mほど離れた位置で他のお客様の介助をしていた。右側を下に転倒したが、頭部には保護帽子をかぶっており頭部への影響はなかった。医療機関で「右上腕骨近位端骨折」の診断。施設で療養いただくことになり、翌月完治した。	転倒リスクは高いが自身で動きたいという意志が強く、保護帽子や大腿部の骨折予防の保護パットを使用している。常に付き添うことはできないが、本人の意思を尊重するくらしを守ることに、衝撃緩和マットやセンサーを活用し、そのリスクを最小化することを、家族と共有した。

③ 地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特 養	令和3年度	感染症対策を徹底し、地域の学校や各種団体に対して「福祉教育」や「介護事業に従事すること」等について職員を講師として18回派遣し、延べ522人に受講していただいた。
特 養	令和3年度	練馬区介護サービス事業者連絡協議会の副会長、同施設サービス部会の代表、同人材創出部会の代表として、事業所間の連携と支援に取り組んだ。また、介護保険運営協議会委員、社会福祉協議会の生活サポートセンター運営協議会委員、光が丘福祉施設消防連絡会委員など、様々な分野での役割を果たした。

④ 研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特 養	令和3年度	看護師や施設内委員会の職員が講師を務める施設内研修を62回開催し、延べ533人の参加があった。
特 養	令和3年度	法人の職層別研修、課題別研修、職種別研修のほか、委員会主催の研修や外部研修へ、延べ72名を参加させた。

⑤ 配置人員数【令和4年3月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	31人	13人	42.47人	5人	3人	6.87人	6人	19人	78人
		( 33人 )			( 3人 )					
デイ	1	4人	12人	10.0人	1人	2人	1.2人	2人	7人	26人
		( 6人 )			( 1人 )					

⑥ 介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	36人	2人	0人
	非常勤	25人	4人	2人
看護師	常勤	6人	0人	0人
	非常勤	5人	0人	0人

※人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

※年度当初職員数は、令和3年4月1日時点の在籍職員数

※年度内入職者数は、令和3年4月2日から令和3年度末までに入職した職員数

※年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

## 田柄特別養護老人ホーム

### (3) 施設運営上の課題の取組状況と方向性（令和3年度～令和4年度上半期）

#### ア 事業運営の安定の取組

令和3年度は、特養利用率94.4%、ショートステイ利用率113.2%、合算では95.77%で、前年度より0.6%低下し、収支差額も約600万円減額となりました。

今後、目標利用率の達成と高騰する各種経費の削減や業務の効率化に取り組むとともに、各種加算や助成金の獲得など、安定した経営が維持できる体制を確保します。

#### イ 共生型障害者短期入所サービスの取組

ショートステイは共生型サービスとしての障害者特定短期入所事業に取り組み、3月より事業を開始しました。昨年度は1名の利用実績がありました。令和4年度は10月末時点で3名の利用者に延べ20日間の利用実績がありました。

#### ウ 感染症対策の取組

感染症対策委員会を毎週開催し、施設で働く全ての職員に毎週PCR検査と抗原検査を実施するとともにワクチン接種の勧奨など、新型コロナウイルス感染症予防対策の強化に継続して取り組みましたが、令和4年5月末から6月末までに、お客様26人(ショートステイ1人含む)と職員6人が感染するクラスターとなりました。多床室の感染拡大防止の厳しさを痛感する事例となりました。

「感染症を持ち込まないこと」が最大の予防対策と考え、感染の可能性を最小限に抑えるための検査の実施や健康チェック、家族も含めた感染予防の情報の周知に努めます。

#### エ サービスの質の向上の取組

サービスの質の向上させるために、ケアアドバイザーが点検し改善につなげる取り組みを行いました。4年度からはこの事業に代わり、新たに「外部評価者によるサービス点検」の仕組みを導入し、8月の「外部評価者によるサービス点検」により確認された課題の解決に取り組み、12月の再点検に向けて改善活動に取り組めます。

#### オ 地域貢献の取組

コロナ禍の中での地域貢献のあり方を模索しながら、練馬区介護サービス事業者連絡協議会や練馬区の施設長会などの活動についても、感染症の対策を講じたうえで主体的に参加しました。

今後、様々な団体との連携の中で、各種地域貢献活動に積極的に取り組みます。この中で、子供たちへの「福祉教育活動」や、介護施設の現状を若者が伝えるイベント「FACT」、介護に関心を持っていただくための「福祉入門講座」などにも取り組みます。

### 3 関町特別養護老人ホーム等

#### (1) 利用者状況

##### ① 定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	70人	365日	25,550人
ショート	10人	365日	3,650人
デイ	40人	310日	12,400人

※利用可能定員＝定員×年間稼働日数

##### ② 利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特養	—	—	11人	24人	91人	313人	374人	813人	4.2
ショート	0人	0人	37人	106人	93人	99人	104人	439人	3.3
デイ	29人	39人	379人	373人	191人	153人	107人	1,271人	2.4

※平均要介護度＝要介護1～5利用者の介護度合計／要介護1～5利用者数計

##### ③ 延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特養	24,090人	94.3%
ショート	3,720人	101.9%
デイ	10,081人	81.3%

※稼働率＝延利用者数計／利用可能定員×100

##### ④ 新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	20人	21人	△1人
デイ	38人	39人	△1人

(2) 施設運営状況

① 苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
デイ	令和4年3月	申出人宅に面した道路は、多くの子供が住んでおり駐車場や道路で遊んでしまう。朝夕に多くの送迎車が通っており、もう1本南側の道路を走行していただけないかと要望される。お互いの安全確保のためにも協力していただきたいと電話があった。	道路で子供がよく遊んでいることは把握していたので、極力低速で走行している。今後は、基本的に1本南側の道路を走行するが、路上駐車やどうしても走行しなければいけないときは通らせていただく旨を伝えた。
特養 (ショート)	令和4年3月	ショートステイ送り時に、家族に請求書と領収書をそのまま手渡された。個人情報に記載されているので、風で飛ばされたら大変なことになる。封筒やカバンに戻していただきたいと、家族から電話があった。	ご心配をお掛けしたことを謝罪する。車の中では、カバンの中に入れていた。自宅到着時に、請求書・領収書の説明・確認しそのまま手渡してしまった。今後は、カバンに戻して渡すようにすることを伝えた。

② 事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	令和4年3月	10:00 訪室し移乗介助のため、ベッドギャジアップすると、腰痛の訴えがあった。13:00 配置医回診し整形外科受診の指示がでる。整形外科受診し、第3腰椎の圧迫骨折と診断される。骨粗しょう症によるもので、他の骨もつぶれてきているため、内服と注射の治療が始まった。	リフトでの移乗は継続するが、痛みがある場合は、ラクラックスを使用した平行移動での移乗方法にした。自分で車いす操作をするが、痛みがあるときは、介助にて対応した。
デイ	令和4年1月	16:15 帰る予定の利用者がデイルームにいないことに気づいた。事業所内を捜しても見つからないため、建物周辺の捜索に切り替えた。16:25 職員が自宅方面に向かっている本人を発見した。	行方不明になるリスクのある利用者の見直しを行い、離設の可能性のある判断レベルを上げ、定期的な所在確認や対象者の写真等を事務所に掲示することにより建物全体で今まで以上に意識を高め、協力体制が取れるようにした。



③ 地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特養	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石神井高齢者福祉施設自衛消防連絡会に会長として参画し、各部会事に石神井消防署に来ていただき、消火訓練や通報訓練等を実施し、各施設職員の技術や知識、意識向上を図った。</li> <li>・地域の社会福祉法人施設（高齢者事業所、児童・保育施設、障害者施設など）が参加する「関・立野防災ネット」の世話人施設として参画し、全体会として「通報訓練」「煙体験」「応急救護」を実施した。</li> </ul>
特養	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の社会福祉法人施設（介護事業所、児童・保育施設、障害者施設など）が参加する「石神井法人ネット」の世話人施設として参画し、中高校生および区民を対象に、分野毎の施設紹介および業務内容等の福祉についての座談会を開催した。</li> </ul>

④ 研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特養	令和3年度	研修センターを含む外部研修（WEB含む）は43テーマ延べ66人が参加した。内部研修（WEB含む）は19テーマ延べ719人が参加した。
デイ	令和3年度	研修センターを含む外部研修（WEB含む）は6テーマ延べ8人が参加した。内部研修（WEB含む）は12テーマ延べ136人が参加した。

⑤ 配置人員数【令和4年3月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	26人	6人	31.4人	4人	4人	6.0人	6人	6人	53人
		( 24人 )			( 3人 )					
デイ	1	7人	7人	9.9人	1人	3人	1.9人	2人	10人	30人
		( 6人 )			( 1人 )					

⑥ 介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初 職員数	年度内 入職者数	年度内 離職者数
介護士	常勤	36人	1人	4人
	非常勤	14人	1人	2人
看護師	常勤	4人	0人	0人
	非常勤	4人	0人	0人

※人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

※年度当初職員数は、令和3年4月1日時点の在籍職員数

※年度内入職者数は、令和3年4月2日から令和3年度末までに入職した職員数

※年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

## 関町特別養護老人ホーム

### (3) 施設運営上の課題の取組状況と方向性（令和3年度～令和4年度上半期）

#### ア 事業基盤の安定の取組

令和3年度は、年間平均介護度が4.2、利用率が95.24%、サービス活動増減差額マイナス34,335,883円でした。特養の利用率向上に向け、待機者に対して細やかに連絡を取り、常に内定者の確保に努め空床期間を短くする取り組みを行いました。

今後、安定した経営のため、特養・ショートステイの利用率向上を図るとともに、特養全体の新しい人員配置での業務内容を検証し、継続的で効率的な運営に取り組みます。

#### イ 感染症対策の取組

感染症対策を継続していましたが、令和4年8月に、3階入居者36名（入居者0名）職員16名が新型コロナウイルスに罹患しました。2階フロアお客様には感染が拡大することはありませんでした。感染期間はショートステイの利用を控えていただいたため、利用率にも影響がありました。

#### ウ サービスの質の向上への取組

令和3年度は、外部ケアアドバイザーが事業所内を点検し、指摘された課題をPDCAサイクルに基づき、全職員と共有を図りながら改善に取り組みました。令和4年度は「外部評価者によるサービス点検」を実施し、指摘事項の改善状況を評価していただくことで、ケアの質の向上と課題解決に取り組みます。また内部実地検査の点検方法を変更し、コンプライアンスの遵守を図ります。

外部・研修センター・内部研修を併用し、介護・医療等の専門分野を始め、職制等も含めWEB研修を活用しながら、資質向上の取り組みを継続します。

#### エ 地域との連携の強化と社会貢献の取組

地域共生社会の実現に向けて、障害・保育・高齢の社会福祉法人が会員となっている、「ねりま社会福祉法人等のネット」の世話人施設として参画し、「断らない相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」を作り上げていく取り組みを継続しています。

今後、「石神井法人ネット」「関・立野法人ネット」に参画し地域の社会福祉法人との連携強化に取り組みます。また、地域の「関町防災ネットワーク」、石神井消防署管轄「石神井高齢者福祉施設等自衛消防連絡会」の会長施設として、地域と連携し防災意識向上に繋がる取り組みを進めます。

#### 4 富士見台特別養護老人ホーム等

##### (1) 利用者状況

###### ① 定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	50人	365日	18,250人
ショート	6人	365日	2,190人
デイ	40人	310日	12,400人
認知症デイ	12人	310日	3,720人

※利用可能定員＝定員×年間稼働日数

###### ② 利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特養	—	—	0人	14人	59人	251人	272人	596人	4.3
ショート	0人	12人	34人	57人	55人	71人	86人	315人	3.3
デイ	12人	14人	355人	300人	202人	105人	138人	1,100人	2.4
認知症デイ	0人	0人	8人	28人	57人	37人	123人	253人	3.9

※平均要介護度＝要介護1～5利用者の介護度合計／要介護1～5利用者数計

###### ③ 延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特養	17,993人	98.6%
ショート	2,207人	100.8%
デイ	9,632人	77.7%
認知症デイ	2,564人	68.9%

※稼働率＝延利用者数計／利用可能定員×100

④ 新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	10人	9人	1人
デイ	42人	46人	△4人
認知症 デイ	6人	7人	△1人

(2) 施設運営状況

① 苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	令和3年8月	夜間、居室から声がし駆けつけると、ベッド脇に右側臥位で靴を履いて横たわっている。救急搬送し、骨折と4針縫合診断で入院となる。転倒の要因は、認知症のため断定できない。ベッドセンサーは起動していたが接続コードが抜けておりコールが鳴らなかった点について、家族より苦情を言われる。	再発防止策として、センサー使用前にコード接続を確認することとし、コード両端にカラーテープを巻いて判別しやすくした。センサーは常時ONにし23時巡回に確認した。トイレについて再度アセスメントし、対応を検討し、ベッド周囲の環境整備（床保護材設置足元灯ON、ベッドをより低床にし、立ち上がり時の手すり設置等）骨ガード使用の提案等、退院に向けた今後の対応を家族と共有した。
デイ	令和4年1月	お客様から「前回はいつもと違う席に案内された。初めてのことで戸惑った。いつもと同じ席にしてほしい。」との苦情を言われる。	全員参加のため座席の工夫が必要な状態であったが、戸惑わせたことを謝罪した。できる限り同じ席になる配慮はするが、参加状況により違う座席になることを説明した。「案内前に説明があれば安心する。座席の件は了解した。」との言葉をいただいた。

② 事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特 養	令和3年7月	座位姿勢が不安定でベッド上の排泄ケアや立ち上がりケアの際に腰痛があったため、車いすを変更し様子を見る。その後も痛みが軽減されず受診し、その結果、腰椎圧迫骨折の診断であった。骨粗鬆症があり、通常の生活でも骨折することもあると医師から言われた。	90度座位や立位を禁止とし、ティルトリクライニング車いすへの変更、スライドボードでの移乗対応、定時の服薬の他、疼痛時は鎮痛剤内服し安静臥床で経過観察した。骨粗鬆症への対策として外気浴を実践した。
特 養	令和3年12月	離床のために左側臥位にすると痛みの訴えがあり、その後も痛みが継続するため受診すると胸椎圧迫骨折と診断され、骨が弱いため寝返りでも骨折の可能性ありと言われる。	再発防止策として、移乗と排せつケアを二人対応とし、痛みのある期間は昼食のみを離床とした。また、臥床時はソフトタイプのコルセットを使用した。

③ 地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特 養	通 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者支え合いサポーター育成研修では、専門職として現場職員が実習講師と、区内施設へのコーディネートを担当した。</li> <li>・多くのボランティア希望の方に対して、お客様との直接接触のない活動の場を提供した。</li> <li>・社会福祉専攻大学生、看護大学生等の実習を受け入れた。</li> <li>・練馬区みどりの活動登録団体として地域の方と協力し、隣接する「陽だまり緑地」花壇の手入れ等の活動を実施した。</li> <li>・地域の高齢者のサークル活動に場所を提供した。(月6回)</li> </ul>
特 養	令和3年10月	認知症を支える家族会からの要望に応じて企画されたココネリの会議室での公開講座「特別養護老人ホームでの看取り」において、看取りケア委員会(5名)が発表した。当ホームで親を看取った家族(参加者)からは「あのような体制があってこそその介護だったのだと改めて知り感謝だ」との感想をいただいた。発表者等も含め計43名の参加があった。

④ 研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特 養	通 年	令和3年度は練馬介護人材育成・研修センターでの研修を延21名、外部研修を延7名受講した。施設内では19のテーマの研修を企画・開催して延369名が参加し、運営基準上の必要研修を網羅した。さらに、ケア技術と福祉用具使用方法の熟練者によるチェックや接遇の評価等の実施を継続し、介護サービスの質の向上と業務の標準化に努めた。
特 養	通 年	法人の介護サービス理念に基づく施設の目標をグランドデザイン『アットホームな雰囲気の中、認知症の方でも笑顔あふれ、最期までその方らしい生活ができるホーム』にまとめ、人材の適材適所への配置、若手職員の育成、リーダーづくり、委員会・担当制度の充実につなげた。

⑤ 配置人員数【令和4年3月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	21人	5人	23.8人	3人	3人	4.9人	4人	7人	44人
		(16人)			(3人)					
デイ	1	7人	9人	9.9人	1人	4人	1.3人	2人	14人	38人
		(8人(認知症2人))			(1人)					

⑥ 介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	31人	0人	7人
	非常勤	14人	2人	2人
看護師	常勤	5人	0人	0人
	非常勤	6人	0人	0人

※人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

※年度当初職員数は、令和3年4月1日時点の在籍職員数

※年度内入職者数は、令和3年4月2日から令和3年度末までに入職した職員数

※年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

## 富士見台特別養護老人ホーム

### (3) 施設運営上の課題の取組状況の方向性（令和3年度～令和4年度上半期）

#### ア 事業基盤の安定の取組

令和3年度は、年間平均介護度が4.3、利用率が98.6%、サービス活動増減差額マイナス28,738,022円でした。介護報酬の各種加算要件の整備と実施に努め、たんの吸引等特定行為業務従事者認定証の保有職員の配置で、夜勤職員配置加算Ⅲを維持しました。また、看取りケアについては、繰り返しご本人とご家族の意向を確認するなどのACP（アドバンス・ケア・プランニング）を実践し、多職種が連携したPDCAサイクルによる看取り介護の体制を維持し、最期までその方らしい生活に取り組みました。令和3年度のショートステイ事業は、年間平均介護度が3.3、利用率が100.8%、サービス活動増減差額7,254,492円でした。医療ニーズの高い方も居宅サービス事業所等と連携し、積極的に受け入れました。利用2か月前の申込の調整で、ほぼ100%の予約を受け、その後のキャンセルにはキャンセル待ちの方や緊急ショートを割り当てることで、高い稼働率を達成しました。状況によって看護職員が送迎車に添乗し、ご自宅での心身や服薬の状況を確認し、施設での状況をご家族に説明することで、チームケアを強化しました。今後も送迎の効率化、記録およびプログラム活動の充実を継続し、利用満足度の維持につなげます。

#### イ 建物・設備の保全管理と防災対策の取組

令和4年9月22日（木）午前8時前に発生した地下機械室内分電盤の火災に関して、暫定的な復旧工事により特養の入居者、デイサービスの利用者へ通常とおりのサービスが提供されています。現在は、分電盤の改修工事を進めております。今後も、建物と設備を適切に管理し、お客様の生活環境を保全します。

また、災害BCPに沿った訓練の実施により、職員の意識化を図り、災害用備蓄品の確保・管理に努めます。

#### ウ 地域貢献の展開への取組

「高齢者支え合いサポーター育成研修」の講師とコーディネーター、ボランティアへの活動の場の提供、学生等の実習の受入、練馬区みどりの活動登録団体の活動、石神井高齢者福祉施設等自衛消防連絡会第六部としての活動を継続しました。今後は、地域への施設開放を継続し、感染の状況に応じてケアカフェの拡大を検討します。



## 5 大泉特別養護老人ホーム等

### (1) 利用者状況

#### ① 定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	120人	365日	43,800人
ショート	15人	365日	5,475人
デイ	40人	310日	12,400人
認知症デイ	12人	310日	3,720人

※利用可能定員＝定員×年間稼働日数

#### ② 利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特養	—	—	0人	20人	240人	635人	537人	1,432人	4.2
ショート	0人	0人	21人	100人	169人	101人	129人	520人	3.4
デイ	12人	2人	232人	308人	270人	152人	42人	1,004人	2.5
認知症デイ	0人	0人	26人	70人	68人	62人	53人	279人	3.5

※平均要介護度＝要介護1～5利用者の介護度合計／要介護1～5利用者数計

#### ③ 延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特養	42,985人	98.1%
ショート	4,663人	85.2%
デイ	8,954人	72.2%
認知症デイ	2,233人	60.0%

※稼働率＝延利用者数計／利用可能定員×100

④ 新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	23人	20人	3人
デイ	43人	46人	△3人
認知症 デイ	18人	18人	0人

(2) 施設運営状況

① 苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	令和3年 4月	ご家族から通院同行した際に、「衣類の季節感が気になった。外出なので季節に合ったものを着させてもらいたい。」との申し出があった。	春先で数日間温暖差があったため衣類の選定が難しく、ご家族がイメージしていた服装ではなかった。外出時のお客様の身だしなみについては外出時にご家族へ確認することを職員へ周知した。
デイ	令和4年 1月	ご家族から「母親が「バックを誰かが開けて、勝手に中身をいじられている。」と時々言います。連絡帳を出す際のことだと理解していますが、本人がそのように発言したら、連絡帳を出したことを伝えて下さい。」という申し出があった。	お客様のバックなどの荷物は紛失防止のため、専用の場所でお預かりし、連絡帳を出し入れしていた。申し出後は、どのお客様についてもバッグなどの大切なものはご自分のそばで保管していただけるよう座席の後ろにS字フックを取り付けました。職員が荷物に触れる際にはお客様と一緒に確認ができるようになり、自立支援の取り組みにもつながりました。

② 事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特 養	令和3年 11月	ベンドセンサーが反応し訪室する途中でドスンと音が聞こえた。訪室すると居室入口のゴミ箱に頭があたり左側臥位で横たわっている状態であった。受診した結果、頭部は異常なかったが、右大腿骨警部骨折が判明した。	ご本人はプロテクターパンツを着用していて、手すりにつかまり居室内移動が可能である。居室の環境は、センサーは端座位になったら反応する設定、トイレまで手すりを使用して移動できる環境、ベッド周りトイレまでの移動範囲は衝撃緩和マットを敷いていた。退院後は、センサー設定を端座位から起き上がり0秒設定に変更した。
特 養	令和3年 12月	左脇腹の痛みの訴えが聞かれており、整形外科を受診した。レントゲン検査の結果、左第10.11肋骨骨折が判明した。	ベッドセンサーを設置しており、職員見守りのもとで移乗してもらうようにしていたが、ご本人の動きが早く、職員がかけつけても間に合わないことがあったため、ベッドから起き上がる際にどこかにぶつけた可能性がある。その後は、ベッドのサイドレールに保護材を使用した。

③ 地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特 養 デ イ	通 年	地域のボランティア団体に1階のデイ食堂を貸し出し、「虹のカフェ大泉」を毎週水曜日の午後開催し、地域の子供から高齢者まで多世代が集う場所として定着している。実行委員メンバーに向けて、感染対策の研修を開催した。
特 養 デ イ	通 年	「練馬区学習支援事業(中3勉強会)」として、1階デイ食堂を貸し出し、学習支場所の提供を継続しているが、令和3年度は中止している。

④ 研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特 養	通 年	年間計画に沿って、職員の資質向上を目指し、法人や研修センター主催の研修 17 回（延べ 39 名）、外部研修 25 回（延べ 37 名）参加した。人権・介護技術・感染症予防・認知症ケアの向上等を目指した内部研修を、14 回（延べ 587 名）実施した。令和 2 年度の後半では、外部研修がオンラインで受講できるようになり、学びのツールとして活用した。
デ イ	通 年	年間計画に沿って、職員の資質向上を目指し、法人や研修センター主催の研修 9 回（延べ 18 名）、外部研修 5 回（延べ 5 名）参加した。人権・介護技術・感染症予防・認知症ケアの向上等を目指した内部研修を、11 回（延べ 290 名）実施した。

⑤ 配置人員数【令和 4 年 3 月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	52 人	9 人	59.8 人	7 人	3 人	7.8 人	7 人	19 人	97 人
		( 41 人 )			( 4 人 )					
デ イ	1	6 人	12 人	13.0 人	0 人	2 人	1.9 人	3 人	16 人	39 人
		( 8 人 (認知症 2 人))			( 1 人 )					

⑥ 介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	60 人	3 人	2 人
	非常勤	22 人	3 人	3 人
看護師	常勤	8 人	0 人	1 人
	非常勤	5 人	0 人	0 人

※人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

※年度当初職員数は、令和 3 年 4 月 1 日時点の在籍職員数

※年度内入職者数は、令和 3 年 4 月 2 日から令 3 年度末までに入職した職員数

※年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

## 大泉特別養護老人ホーム

### (3) 施設運営上の課題の取組状況と方向性（令和3年度～令和4年度上半期）

#### ア 事業基盤の安定の取組

令和3年度は、特養利用率98.1%、ショートステイ利用率85.2%、合算では96.6%でした。ショートステイは地域事業所の新型コロナウイルス感染症発生に伴い、利用予定の方がキャンセルになるなど稼働率に影響がありました。

引き続き、目標利用率 特養98%とショートステイ98%を目指します。

#### イ サービス向上の取組

令和3年度、外部ケアアドバイザーの評価を継続して受け、日々のケアの質の向上と職員の意識向上に取り組みました。また、介護技術点検や情報共有の仕組みを見直し、風通しの良いチーム作りに取り組み、不適切なケアの防止に努めました。

今後、内部チェック機能として内部実地検査を充実させ、お客様の生活環境の整備や人権および接遇に配慮したケアの提供を目指し、チーム力の向上を図ります。

#### ウ 大泉ケアハウス民営化への取組

令和3年度4月から区立施設から民営化されました。入居者への説明や今後の方向性については定期的に説明会を開催し、個別の意向把握や相談は入居者の状況を踏まえ丁寧に対応しました。引き続き入居者への意向把握や相談支援を個々の状況に応じて実施していきます。ケアハウスの職員は、入居者との信頼関係を維持し、入居者の気持ち持ちに寄り添い、安心して次の住まいにつなぐことを役割とします。

#### エ 施設建物の保全・管理の取組

施設建物は築23年となり、建物および設備、備品等の劣化に伴う修繕費等の増加が顕著となりました。今後、大規模改修等も控えてはいますが、現状の事業運営に支障がないよう、必要な修繕を早めに対応し費用を抑えるように努めます。

・新型コロナウイルス感染症の発症予防と感染拡大防止に取り組み、事業継続が可能な体制を整備し、お客様の安心・安全を守ります。

#### オ 地域連携、社会貢献への取組

施設開放事業としての「虹のカフェ大泉」は感染対策を行いながら実施し、「練馬区学習支援事業」は再開に向けて継続支援していきます。また、大泉地域の社会福祉法人が加入している「大泉法人ネット」に施設全体で関り、「農福連携」「職業体験」等に取り組みます。